

中津川市総合計画審議会
第2回産業部会要旨

平成25年9月11日（水）
午後2時55分 開 会

部会長あいさつ

1. 市民アンケートの中間集計の報告

（岡山部会長） 事務局からアンケートの報告をお願いします。

～事務局 報告書説明～

（岡山部会長） 委員の皆さんから、所見をお願いします。

（鈴木委員） 13ページの働く環境について、全国的に労働条件が悪いので、中津川だけが悪いと解釈されるといけない。この辺りは出すときに慎重にしてほしい。

（足立委員） 9、10ページの中津川市への思いと、暮らしやすさで相違した評価が出ている。特に若い年代が中津川市を思う気持ちが非常に高いが、暮らしやすさになってくると低いというこのアンバランスは、かなり大きな問題がある。

（鷹見委員） 中津川市に想いがありながら、魅力がないというのは、やはり外のほうがいいと見えるかもしれないが、数字が大きいのが気になる。

（安藤由美子委員） 病院の充実で、ずっと市民病院の概念が拭い去れない部分が続いているように感じる。私の場合には両方とも使っているが、新しくなった恵那市立病院が流行るのは、改革した部分があるように見受けられる。そういう根本的な市民病院の体制をもう少し考えてもらえると、医療の充実もしっかりする気がする。

（岡山部会長） いわゆる市政的な混乱が、医療の不満につながっているということがこのアンケートの中に含まれているのではないかと指摘ですね。

（安藤由美子委員） そうです。

（品村委員） 5ページの居住年数について、私自身が移住なので興味があつて目を通した。年配の方は20年以上の居住がほとんどで、意外と30代、40代は居住年数が短い方が半分近くいるというのと、過半数の方が60代、70代以上の居住年数が20年以上の方なので、全体の意見にもどうしても多少偏りが出てくる。私たちがテーマにしようとしている定住の方たちの意見は、どこまで反映されているのかもう少し細かく見ていきたい。

（岡山部会長） 病院の充実について、ここに入っていない部分があるかもしれないので、分析の仕方の中のチェック事項としてある。

それからもう一つ、住みやすいと言いながら実際は不満がある。人間が生きていくうえで、死ぬまで不満を思うものであり、これも分析の仕方に入ろうかと思う。20年以上居住の方が多く、移住された方々のように居住期間の短い方々の意見が少ないので、偏った意見になってしまうというおそれがアンケートの

分析の中に含まれるのではないかということです。ここに魅力があって来られた方の意見とそうでない方の意見が、どこまでこのアンケートに反映されているかという問題が提起された。

それから冒頭、鈴木委員からあったように、これは中津川市だけの問題なのか、全体の問題なのか。このような点もふまえて、浅井先生の立場から広域的に話をお願いします。

(浅井副部長) 若い人たちが特に愛着を抱きながら、継続して住み続ける意識がそれほど高くないという意外性をもう少し分析してみると、参考になる情報が得られるのではないかと。具体的にはクロステーブルなどを取ってみると、わかってくるのではないかと思う。住み続けることが嫌な人の中で、愛着を感じている人が何割ぐらいいるのかというデータがあると、我々の検討も具体的に進められると思う。

市民病院の問題は、転入した人にはすぐには理解できないことなので、そういうローカルな要因と全国的な要因、傾向を分離すると見えてくるのではないかと。

(岡山部会長) 行政の一般的な話の中では、安心で、安全で、豊かな市民生活を送れるというのがベストだと思うが、100パーセント満足するということはありません。絶えず不満があって成長がある。安全に、豊かにという部分は、産業がしっかりしないといけないという部分は、市民のアンケートから読み取れ、ニーズが非常に高いものがある。産業部分は、市民はしっかり育成していく必要があると認識しているということについては、共通認識ができるのではないかと思います。

～異議なし～

(岡山部会長) その次に定住という部分だが、愛着は年代層によって幅がある。それを定着させる姿勢が見えるか。このことについては全体にぼやけていると思うので、ここをビジョンの中で明確にしていかなければならない。地域愛のような部分を上手く将来像に織り込んでいけるといい。

市民アンケートの中間集計の報告について、産業部会としては、豊かにという部分が産業として求められているという認識が、市民レベルからもあるということがわかった。それからこの地域愛、地元に対する愛着が年代層によって差が広がっていることについても今後、勉強していく。

2. (将来都市像について)

(岡山部会長) 「将来の都市像」について、資料を提出してもらい、その後、会長からモデルケースが出されたが、これをどう分析、集約したらいいのか、感じるころだけでもいいので報告をお願いしたい。

(鈴木委員) 中津川市は観光の資料、財源は非常に多いが、ありすぎて上手くいかない。それから、中津川の観光協会ごとに温度差があって、市の予算に対する考え方にも違いがあるので見直していかないとはいえない。

市は「こうしていくんだ」という方向性が曖昧。中津川の人、商売にくつつ

けて持っていくのでそこにギャップがある。全体を見てプランニングすることが大事。

課題で一番の問題は、中津川市の観光スポット。中津川市は（観光の）資産、財産のほとんどを第三セクターに任せた。一番いい例がクアリゾート湯舟沢。多額のお金を使ったのに、結局赤字経営で時々市が補助金を出して埋めている。完済するわけではないので、この辺を根本的に直さないといけない。

施設も相変わらず賃借でやっている。購入するか廃止すればいいが、お願いをしても改善の速度が遅い。

最後に、中津川市が早急に処置しなければならない問題は、第三セクターを含めて中津川市が所有している観光の施設等の民営化。

これは市がビジョンを作って観光協会のトップとミーティングしていけば直っていくと思う。

リニアが来たから、観光が良くなって、人口が増えるとは全く思わない。家族が宿泊していくのではなく、名古屋やよその人が1日楽しんでいくには、ちょうどよい距離で、のんびり遊べる場所がある。子どもが羊や動物と一緒に遊べる場所がある。そういう観光のほうが中津川に向いている。

それから旧町村がキャンプ場をたくさん持っているが、施設は全部老朽化していて、修理に何百万、何千万円とつぎ込まないといけないので、放ったまま第三セクターもやらない。修繕、補修、捨てるものは捨てる、その決断をしなければならない時期だと思う。

（安藤由美子委員） 観光はその町が潤うということ。バラバラではだめなのに合併してもまとまりがなく、お互いの主張が多すぎて譲り合わない。各箇所の良いところを持っているが、合併して一定期間経ったのだから、中津川市的な考えでやろうと言ってもまだできないと主張される。

観光も集約をして、大きなところで観光事業をやろうといっても上手くいかない。農産物やJAのグリーンセンターはある程度動いているが、中津川市内の家庭的菜園のような形と行政も、ファーマーズマーケットなど相対するようなことをしていて、行事もバラバラで観光の資源にはならない。中津川市は何を観光にしたいのかビジョンが見えない状態。

中津川市の観光という形で発信していこうと思ったら、もう少しまとまりのある話し合いをしないと、観光事業は尻すぼみの状態になる。農産物、和菓子などすばらしいものが作られているが、それも全国に発信するためにはバラバラだと個々の主張に過ぎない。

伊賀市では、民間と色々な形で一つに集約して良い形に持っていつているが、お互いが自分の箱の中から出てやらないと上手くいかないのではないかなと思う。

（岡山部会長） 工業、商業に入りますが、工業に対しては、民間がやる部分は民間にどんどんやらせたほうがいい。その中で行政が目をつけられないといけないのは、1点はリニアという部分で、世界の最先端工場ができるので、これをどう活用するかが工業のキーだと思う。

2点目に、中津川市は地方都市では工業出荷額が多い都市だが、工場があつて当たり前というのは今後は続いていかない。この部分を行政がそれなりの手立てをしないと、最悪なら撤退という話になる。この部分は行政が担わないといけない。

もう1点は、合併したことによって地域産業や地域資源も非常に豊かになったが、外に向かつての地域間競争の中では大事な地域資源なので、地域産業の育成という部分で、これは行政が底から支えることが大事。

商業については非常に難しいので、踏み込むことができなかった。

合併の弊害と言われる所に住んでいる立場からは、その産業の立地、生まれ育った環境が根本的に違っている。合併前は行政が至れり尽くせりの部分がなかったわけではないが、合併後は逆に引いてしまって、地元からすると困惑しているところがある。それを多数の意見だからこうだとされることに多分すごく拒否感があると思う。そのお互いの存続を認め合ったときに、はじめてうまくいくのではないかなという気がする。

中津川市には中津川北商工会と中津川商工会議所があり、産業関係も2つに別れている。中津川北商工会の立場だと、地域をどう維持していくかが大きな問題で、地域として自立していくことが、中心部も含めて効果を出すことにつながる。自分たちが活力をもって、「俺たちの村は」という村づくりを出したりして、思い切った施策を打つことが、自分たちの存続にかかっていると思う。

だからそういう地域ごとの特性を活かした地域づくりをしっかりと進めていくことが、地域の産業を支えていくことであるという認識です。だから全部中津川市で同一色でいいのかということとは少し違う。

今は、色を明確にしていくことの方が、地域をいきいきとさせることだと思っている。それを認め合うことが大事という地域づくりをやっていると思っ

ている。
産業の中の工業、商業というより、むしろ定住や移住推進に中津川北商工会は力を入れている。商工会といえども、工業、商業と一緒に地域をしっかりすることが、実は私どもの生きていく道をつくることだという位置づけでいる。

(鈴木委員)

中津川の場合、この20年は海外進出している企業と国内だけでやっている企業があり、単独でやっている企業でも外に攻めていく企業と、中にいる企業がある。それから国内でも外注、いわゆる第二次請けで、三菱だったら三菱の協力工場という形の大体3つに正確に分かれている。

例えばお菓子などは、外に出て行っているのは3社か4社。あとは全部中津の中でやっている待ち商売。そういうものを分析すると、中津川市が何をやらなければいけないかというのが出てくると思う。

工業、商業を市役所自体が売り込む必要がある。

何を売込みしたらいいのかは、たぶん福岡町や付知町、加子母村長は思っていたと思う。市の職員はそれを思って同じ格好で攻めていかないといけない。

農業の攻めも中津川市は下手なので待っている。だから観光は、お客が来ない

から商売が成り立たないことになるが、それは逆で、自分が行くかお客が来なければ連れてくればいい。

落合などでは、野菜を持って行って自分の目標だけ売って帰ってくる。それで食っていけばいいじゃないのという発想なので、やる気になれば、どんな形でも取れる。

そういう意味で、ものの捉え方一点で工業、商業を見てしまうことは非常に難しい。行政がやることと我々がやることを明確にすると、市に対してどういうことをやってほしいかが見えてくる。

(足立委員)

農業振興で基本となるのは、中津川市の農業振興ビジョンとＪＡの「東美濃農業振興ビジョン」で、内容的には合致したものになっている。

この農業振興ビジョンでは、農業者の所得の向上が第一で、それから農業と他業種との連携。これは商業、工業、その可能性。

ビジョンではまずは農業を軸とした地域振興の将来像として、一つは農業振興のための農地の維持と保全。そのために後継者の問題や農地の集積、鳥獣害対策等。

ここで一番言いたいのは、他業種との連携の可能性で、農地は農産物の生産をするだけではなく、地域の自然、景観保全を維持するのに重要な役割を果たしている。管理された水田、農地がある地域は、純粹に美しい。それだけで都会から来る人は感動し、パワーを持つので十分に観光資源にもなる。最終的には、リニア等を含めた中で、グリーンツーリズムがますます進むと思う。その時に、農業が見直される時期が来るのではないかというのが１点です。

２点目は、農業を次の時代へつなぐ取り組みが、行政、農業団体ができているかということで、これについては市やＪＡが、営農組合、経営体を育成し、農地を守っていく必要がある。

３点目は、環境に配慮した農業が展開され、安心して安全な農産物が生産できることが大事ということで、今、ＴＰＰ等で騒がれているように、農薬規制、トレーサビリティができているかどうかということで、しっかりできているのが中津川地区の農業。

特に、中津川のブランドを活かした付加価値販売で、夏秋トマト、茄子、飛騨牛、栗などがある。飛騨牛については、海外へも進出をしようとしている。夏秋トマトは、京都へ全部卸しているので、一部分では攻めの農業ができている。攻めの農業によって、中津川ブランドの農産物をもっと中津川市民の人に知ってもらいたい。

ＪＡの直販所、市のファーマーズマーケットについては、より安心、安全な農畜産物を市民に提供するという観点でやっていて、ＪＡの直販所は、産直をやる人が農地を守り、安心なものを作り、少量多品目を作ることで収入を得る。買うほうは地元の顔の見える野菜を買って、それを食材にする。中津川のグリーンセンターでは、中津川市の飲食店のお母さんたちが、たくさん買っていくのが特徴的なので、今のところＪＡの産直は観光という認識はしていない。

それから生きがいを持てるような農業であってほしいということで、田舎には良い物がたくさんある、それを継承していくために、高齢者が、生き生きとした生活ができるような農村を守らないといけない。

(鷹見委員)

中津川市森林組合の経営理念とか方針だが、戦後、植栽により環境が守られてきたが、後の手入れがされていない。土地所有者のやる力もなく、また木も世界標準の1㎡1万円で、補助事業をもらわないと木が出せない。売ろうとすると集約化して団地化しないといけない。

やるにしても高齢化している。四ッ目川水域でも、遊砂工の計算上の土石流はある程度もつが、流木の計算はしていない。森林整備が遅れている状態なので流木はそのまま下に流れていく。

中津川森林組合の組合員や組合員でない森林所有者の山を守るために集約的にやろうとしても、森林組合自体が零細化しているし、直営の現場の従業員も生活ができない状況に追われている。

それを集約的に抱えて、まとめなければならない職員も疲れ果てて、早期退職をしていくような状況になっている。

中津川に森林組合が3つあるが、合併しないと森林は守れない。国は平成10年までに植えた木を、保育間伐をせずに出すことばかりに補助金を付けているので、市場では叩き売り状態になっているし、商社は外材を安定的に安く入れてくる。

また、一人親方の人はどんどん廃業に追い込まれている。森林の事業体として、その人たちに何とか有限会社くらいになって事業をやってほしい。若い人たちを育てているが、そこも入れ替わり立ち代わりで、10年ぐらいして慣れてきた頃に去っていくという状態が多い。ちょうど技術が付いた頃にだめになってしまう。後継者、担い手の補助があってもできないという状況。

リニアが入ってくれば、東西、南北のアクセス道が先にできるが、その周辺の景観の手入れができず悪い状態になっているのに、森林組合の力では到底できない。

それで連携をしながら森林整備するため、集約化で3組合の組合長会を立ち上げた。景観とか森林整備を主にしながら、中津川市の商工業が発展し、皆さんに来てもらって、道路を走っても景観がよく気持ち良ければ住みたいと思う人も増えてくる。住環境の近くにある里山は特に整備が遅れているので、重点的に林業振興課と話をしながら要望を募ってやっていくという地道な作業に入る。総合計画では、森林整備の景観、特に修景整備を重点的にやらないといけない。

(浅井副部長)

品村委員も私も母体となる団体が特にないので、このテーマに関する認識をリストアップした。

主に4項目が中心で、(1)移住・定住の推進は、生活基盤の整備はもちろん、産業基盤の整備があつて初めて可能となるものである。(2)ひろく世界の人々の関心を集め、人々が本市に移住し定住することを選択するためには、まずは

安全に生活でき、安定した収入があり、文化的活動が可能であることはもちろん、市民が本市に居住していることに誇りを抱くことのできる環境を整備することが必須である。(3) このように考えると、本テーマの推進には防災・環境整備計画および教育・文化スポーツ・福祉・医療サービス整備計画の推進・実行が前提となる。換言すれば、本テーマは自治体のほぼすべての活動の最終目標の一つであるということができる。(4) こうしたことから、本テーマについては、現にいくつかの近隣自治体における計画・構想に共通して見られるように、他の個別計画・個別構想と同列に位置付けるのではなく、それらを横断し、かつ都市の魅力ある将来像への戦略全体の中に構想すべきである。

こういう方向に市を導いていったらどうかと考えている。いろんな取り組みを基礎に、結果として中津川が魅力あるまちになるという捉え方もできる。一方で中津川を訪問してみたいくなるという意味では観光ということも関連するし、住んでみたいくなるという場合に、自然環境が良く安全で安心して暮らせ、しかも生活には困らなくて就業の機会があるということを考えると、産業立地がインフラにあるということがわかる。そう考えるとすべてが関連してくる。他の部会も移住・定住に深く関係している。

その中で第一には、大人も含めて、「岐阜県の中津川に住んでいます」ということを、誇りを持って言えるまちにしていくこと。そのための条件は文化的レベルが高いということ。住んで快適に住めるということは、自然環境に関係してくると思うし、リニアのビジョンにもあるが、二地域居住の時代になってくるかもわからない。

それと大阪からも東京からも1時間で来れるということ。

2つ目は高齢者や障がい者に優しい、ユニバーサルデザインが行き届いているまち。

3つ目は産業立地という観点で、中津川は何で生活をしているまちなのかを一言で答えられるまちにすること。今後高齢化していく中で、高齢者の方々がここに来たいくなるということを前向きに捉えていくということが大事。

例えば農業の立地との関係でいえば、安全、安心な食生活が楽しめるということ。老後を過ごすのに快適という立地を考えていく。産業の立地は工業以外にも幅広く捉えていったほうがいい。

4つ目は、未来型の産業立地を更に進めるということで、研究施設などを誘致できないかということ。そういう夢のある構想を持つといいのではないかな。

(品村委員)

私が書いた部分は、「深呼吸ができる街、中津川」というフレーズを最初につけた。私の両親が中津川市に移住した決め手は自然環境にある。両親は商売をしているが、高速道路のインターチェンジに近く、東西にどちらでも行け、商売の機会として良いのでここに移住を決めた。

移動の利便性という部分では、リニア新幹線が来るとその部分はより加速度的に広がっていくが、それはどこでもいいのかというわけではなく、居心地のいい、住みやすい環境であることに意味があると思う。「深呼吸ができる街、中津

川」のフレーズで中津川市の良さを知ってもらいたい。

ここにしかない自然を一回破壊すと、もう二度と作ることはできない。自然をどんどん壊して東京や名古屋に近づけるような産業を作っても、都会がもっと上に行けばそちらに魅力は奪われていく。本来持っている中津川市の良さをなくしてしまつては、ここに住むため、ここを活かしていくために一番もったいないことをしてしまうことになる。リニアが来たときに、自然がいっぱいあるが都会にも出て行けるという環境が揃えば、中津川市に住みたいと思う人も日本の中でたくさん出てくるのではないかと思う。

(岡山部会長) 定住・移住はどこにも当てはまること。ここだけで話をしているのかということになると、少し大変。先ほどの就業機会、そこから豊かな環境がこの部会に関係してくるのかなと思う。ほかにも医療もあつて、こうだというのが難しい。それではそれぞれの委員の方に、ご質問いただきたい。

(浅井副部会長) 若手の育成の話で、技術、知識を身に付けたら10数年で去っていく人は、どこへ転職するのか。

(鷹見委員) 転職先は、親戚の農業関係のファーム、農協の販売店、フリーター、林業事業体、機械関係のメーカーの修理で、担い手が育たないのは収入がないからなので、結局は収入のため、習得した技術は活かしていない。

(岡山部会長) 農業と林業の問題については、どうしたら飯が食えるのか。農家や農地の集約化をしていったところで、それは農家が飯が食えることにはならないが、産業として、どうしたら農業の就業人口を増やす、もしくはこんなことなら自立できるという考えがあればお話いただきたい。

(足立委員) 夏秋トマトだったら設備もあまり掛からないので、3反作れば大体食べていけるぐらいの収入がある。また。飛騨牛だと、繁殖で20頭ぐらい、肥育で30頭ぐらい。

(岡山部会長) 食べていける金額とはどれぐらいの金額か。

(足立委員) 金額は大体実収入で400万円。年収が200万円だが、若い人には年金がないので、年齢的なこともある。

(岡山部会長) 結局将来性を考えると、若い人が食えなかったら就業ができない。問題は、若い人たちがしっかり飯を食える状況を作らないといけない。

(足立委員) 今、農業者の二世は規模の拡大を行っている。牛舎を作り、親は25頭しか飼わなかったものを80頭も100頭も飼っている。JAは、50頭で十分食べていけるから、まず50くらいからはじめて様子をみながらという支援をするが、果たしてこれでいいのかということ。

畜産は、環境問題が付いて回る。以前、牛舎は山の中にあつたが、その周りは宅地化され、臭いから早く出て行けと言われる。若い人が専業農家として生きるためには、行政、あるいは農業機関の支援が必ず必要。恵北地域は畜産をオープンにするというのが私の持論で、そういう農業の形態を求めていけば、若い人も十分に地に着いた生活ができると思う。

(岡山部会長) 林業のほうでもありましたら。

- (鷹見委員) 林業従事者は年収300万円を切っているので、子育て中の者たちはどんどん去っていってしまう。技術者なのでオールラウンドにやれる環境をつくればどんなこともできる。それもどんどんやっていく必要がある。
- (岡山部会長) 今日の全体の話の中で、課題の提案がそれぞれあったような気がする。問題とその解決方法の方向も少し入っていたように感じる。実はこのことが今回の将来像を決めていく大事なことでないかと感じた。この中に行政、民間がやらなければいけないことがあって、特に市としてこういうことは取り組むべきじゃないのかというところを課題として提案してもいいと感じた。

3. 今後の部会運営について

- (岡山部会長) 将来の都市像については幅が広くて、わずか5つの分野であっても濃い内容になっている。3部会からこういう状況が出てくる。
これをどのようにまとめていくかが、この後の部会運営に関わってくる。この部会に会長から要請されていることは、部会としての将来像を出すということなので、皆さんから出た意見を集約してまとめないといけない。
会長からは、事務局をあまり使わないという指示があるが、今回私の判断で事務局に資料を作らせた。最終締め切りまでにまとめなければいけないので、部会長の職権としてご理解いただいてよろしいか。

～異議なし～

～岡山部会長 事務局に資料配布を求め、事務局資料を配布する～

- (岡山部会長) 行政が行う事務の部分について確認して、まず締め切りから決めていきたい。
この四角で囲ってあるところは、私が指示をして入れたところだが、行政が行う事務について事務局から説明願います。

- (木村企画財務課長) この資料は、審議会の答申内容が基本構想の骨格となる場合を前提として考えました。骨格での答申ですと、2月の最終の週ぐらいに議会が開催されますが、2月20日前後は議案として総合計画の基本構想を議会に提出しなくてはなりません。行政側で肉付けをしたものについて、2月10日から14日の週あたりで市長の決裁を経て議会に提出します。基本構想案はパブリックコメントにかけないといけませんので、その時間をもいただきたいと思います。そうしますと12月の末には骨格としてであれば答申をいただきたいという状況です。

- (岡山部会長) 12月の末に答申ということになると、これまでに審議会へ結論を出し、そこでまた6人会などで審議をして、集約をする形になる。そうすると10月いっぱいには部会としての将来像をつくりあげないと審議会がまとめきれないだろうと思う。

第4回目の部会で将来像を取りまとめないと先に進めないと思うがどうか。

- (鈴木委員) もっと後ろに持っていても問題ないのではないかな。ちょっと役所は甘すぎる。

- (木村企画財務課長) 事務局側としては、大きな骨組みの形で答申ですと、そこに肉付けをする作業が必要になります。それをパブリックコメントにかけますが、これも最

低半月を考えなくてはいけないので、これを遡っていきますとこのようになります。

(岡山部会長) 議会にこの段階で出すか出さないかが一番大きいところ。

(鈴木委員) 答申の仕方がどの程度のことがよくわからない。我々はデータの元に、こういう考え方とアンケートにこう基づいてこうだから、こういう提案をしますよというのであれば骨格だけじゃない。もっと土台のベースとなるものを作ってこいという意見でしょう。そこをはっきり明確にしておかないと。

(岡山部会長) 答申の中身はここまでを期待をしていると事務局に言わないと、事務局は動けないと言ったほうがいい。

(鈴木委員) だから答申の内容が何か。A4一枚のペラペラでいいのなら、もうやめましょう。

(岡山部会長) これは部会ではなく別なところでやるべきことだが。

(鈴木委員) 部会でやったことを、全体でまとめて最終的に答申をする形というのは、それは皆さん一緒にそれがベースだから、その持って行き方について、骨格だけもらっても、市がやるのに2ヶ月かかるのか。

(木村企画財務課長) 当初第1回の審議会で提出したスケジュールは、パブリックコメントを2月に終えて、それで最終的な答申があつて議会に提出するスケジュールでした。我々が思い描いていたのは、行政で骨子を作って審議をお願いし、戻してもらい、行政で素案を作って審議をしてもらい戻してもらって成案を作って最後にすると思い描いていましたので。

(岡山部会長) 当初行政が思っていたやり方は、素案は行政が作って、それに対して審議会の意見を付けるというやり方だったが、第1回の審議会で自分たちで作るという方向が出てこの作業に入っている。しかし、このスケジュールを見た時に、現実にはそういう時間があるのかどうか。これだけ多様化した内容の意見を、産業部会としてまとめるのは大変である。

自分たちが意見を言うべきところは言うが、事務までこちら側でやるというのは不可能だと思うので、私の考えるまとめ方をお話しします。

まず農業、林業の概要は、誰もがそれをひと言でわからないと無理だと思う。

概要はデータに基づいているので問題点以外は事務局で作ってもいいと思う。

それから中津川を見た現状も行政が明確に書けると思う。ここまでは事務方で作らせてもいいのではないかと。中津川市役所の中に林業振興課、農業振興課、工業振興課があつて、そこが一番データを持っているので骨格を作らせてもいいと思う。

その後に、それぞれの課題は行政も持っているはずだから、自分たちもしっかり考えて、それと行政が持っている課題をドッキングさせてもいいのではないかと。

課題に対しての解決方法は政策になろうと思うが、これは行政も明確に出すべきだと思う。

(浅井副部会長) 突き合わせだと思うが、その中で多少違いがあると思う。それは行政が担当

する部分と我々の立場とでは当然違う課題があると思うので、それを突き合わせて矛盾がないか確認して、重複を除いて整理するということだと思う。

(岡山部会長) まず概要、現状とそれに対する課題で、課題については先ほどたくさん出たし、行政も持っている。このことについては、一緒に突き合わせでも結構だと思う。それから課題の解決方法もしっかりと出さないといけない。ここまでは行政も一緒になって作るべきだと思う。

もう一つ大事なことは、行政は切り口を変えて考えることが苦手だと思う。例えばリニアの工場が来るから最先端工場をもっと誘致できないだろうかとか、例えば夏秋トマトや、こんな畜産だったらおもしろいという発想、こういうところが今の課題を解決するための一つのヒントだと思う。こういうところは委員が大いに書き出すべき内容だと思う。切り口を変えてみるのだから、「そんな甘いものじゃない、俺たちはこう思うぞ」と、立場を変えて意見を言うと非常にいいと思う。

私は課題を4つぐらいに分けて、今日の内容を集約して考えたらどうかと思う。今日出たものもふまえて、各部署で現状、概要、課題までは行政で作らせたかどうかと思うがどうか。

(浅井副部会長) 最初のほうに林業についての話があったが、林業に限るのか。

(岡山部会長) 林業は林業で課題や解決方法が、農業は農業で課題や解決方法があるが、行政にはたくさんの専門の係官がいるので、そこでは全部課題も掌握しているはずなので、その知恵を借りないのはあり得ないと思う。そこに私たちの意見をしっかりと入れる作業のほうが大事ではないかと思う。

(浅井副部会長) 事実の整理は事務局で取りまとめても問題ないと思う。それまでやっている、我々が検討、審議する時間がなくなってしまう。

(鈴木委員) 私は副会長だが何もできない立場になっていて、ここでしか発言できない。6者会議でも、私は補佐だから何もできないから、私は事務局に対して発言もしていない。6者会議でも会長の指名がない限り発言できない。だから黙っているしかないと思っている。

みんなが意見を出し合って、最終的には6人でまとめて、最後にもう一回みんなに聞くのであれば私は何も問題ないと思う。

(浅井副部会長) 私は今現在もそのように理解しているが。

(鈴木委員) 私はそう解釈していない。全部副部会長を通すことになっているから事務局に発言できない。

(岡山部会長) 大西会長の言っていることは、事務局が作ったものをただ追認した形を取るなということで、ここ一点に絞って先ほど言った事実の部分の部分はしっかりとまとめよう。行政が持っている課題も、それは大事な課題なので。

(鈴木委員) 逆にこのやり方は時間がもったいないと思う。行政は行政で作って突き合わせをすれば、多分30日、20日は減る。

(岡山部会長) この部会としては、先ほど言ったところを事務局に作らせようと思う。同時に先ほどの自分たちの課題もしっかり作る。次の部会の前までに1回資料提供し

て、それぞれに突き合わせをしてもらって、第3回目にはそれぞれのまとめたものをこの部会に出してもらいたいと思う。

今度は課題まで含めて全部のまとめたものを、その課題に基づいて次は将来像について統一したものを採り出していく。大雑把に第4回目にまとめて10月いっぱいには審議会に送らないと間に合わないだろう。あと2回ぐらいでまとめないと進んでいけないと思うがどうか。

(足立委員) 特に農業は概要も現状も事務局でできるし、課題も十分にみえる。ただし、その解決方法、対応策は民間と役所でかなり違いがあるので、そこだけでいいのではないかと思う。林業もそうだと思う。

(岡山部会長) ただ定住推進は、少し行政と切り口が変わってくると思うので、突き合わせの必要性があると思う。

(鈴木委員) 最終的に出た答えが行政側の意見でもいいと思っている。だからどう自分たちの意見をすぐ出せる体制を作るかだと思う。

(岡山部会長) そうすると第3回目を10月の上中旬にして、1回課ごとにまとめて、そこから将来像の序盤に入る。そして4回目を10月の下旬に開催して将来像のとりまとめ、素案を作ってそれを提出する形を取ろうと思うがどうか。

(安藤由美子委員) どう切り込んでいいのか、わからなくなっている。言われることはわかるが、未来像は自分の思いでいいのか、現実味を帯びたことをまとめないといけないのか。

(岡山部会長) 課題を解決する仕方が実は未来像だと思う。

(鈴木委員) この部会だけではなくて、みんな同じスタンスで通っていかないと。

(岡山部会長) 今日、私たちの部会がはじめてなので。どの部会もこのことについて突っ込んでいない。まとめ方としては個人の観念を入れてしまうと、実は非常に難しくなってしまう。課題をみんなで共通認識することだと思う。

(浅井副部会長) 今日発表された中に大変重要なポイントがあったと思う。要は新しい中津川市になって、地域色をどうするかという点。これについてある程度議論をして、合意を得ておかないと。その捉え方によって、課題になる問題と課題にならない問題がある。それでは課題をリストアップするといっても、委員の中で、課題を判断する基準がばらばらということ。それではいけないので、今日の話を聞いて、議論もある程度は必要だと思う。

(品村委員) 課題の解決がその構想になるというより、課題の解決は12年間かけてやっていくことであって、それよりは、中津川市全体、市民全体が12年後にどうなっていたいか。現実に沿わせるという必要はあると思いますが、「みんながこうなりたい」というその夢を集約したものであってほしい。

(浅井副部会長) その目標となる姿があって、やるべきことが課題だと思う。現実の問題がなければ、何もする必要がないと考えるのは間違いだと思う。問題の中から課題は形成できないと思う。本来課題というのは、「こうありたい」というみんなの合意があって、それぞれの分野で何をすれば達成できるのかという議論が必要だと思う。

- (岡山部会長) そういう概略的な話になってしまうと突っ込みができなくなるので、そのことをやるのは6人会だと思う。だからこの部会としては、問題点を出していく以外にないと思う。産業としての夢は別なところでまとめると認識しているが。
- (鈴木委員) 仮説で入れておかないといけない。大体これで何回とかやっていかないと、多分読めないと思う。
- (岡山部会長) これをまとめて会長に提出するまでが与えられた仕事だが、これがこの人間的なものと時間の中でいくと、月に2回ぐらいの部会と事務局にこういうことをまとめさせようとするこの時間しかないだろうと思う。そうすると10月の末までにやるのが精一杯だと思う。
- その後で問題点として運営の部分でいいので、それでまずければ変えていくと。これを前に持ってくることは逆にできないので。
- (鈴木委員) このスケジュールに3部会全部入れてはどうか。そうするとどこまで埋まるか出てくる。6人会や正副会長会議を入れてみると、日程がもう無理というのが見えてくる。そうするとこうならざるを得ないかもしれない。
- (木村企画財務課長) 6人会等は会長の頭の中にあるかもしれませんが、部会でこれを揉んでいく間に、並行して6人会で理念と政策体系の原案づくりを進めていくと前の部会で話されたと思います。ただそこをやっていくことになる、今、部会長が言われたように、11月頃にやるのか10月の部会と部会の間にやって、目合わせをして原案を作るのか、そういうスケジュールになると思います。
- (浅井副部会長) 後者のスケジュールでやらないと間に合わないと思う。6人会で1日でまとめることができればいいが、一番議論に時間がかかるころだと思う。だから、先ほど部会長がその第4回の部会の後に6人会の審議があると言われたが、これはもう10日ぐらい早めないといけないと思う。だからこの段階で、集まった今日のようなものをそのまま渡すのか、整理したものを渡すのか、6人会がどの程度のものを期待しているかによると思う。
- (鈴木委員) 全部埋めていって見て。多分6人会も2、3回やらないといけないと思うが、1部会ごとに出てきたらそれを解決するというやり方でやらないと多分無理だと思う。
- (浅井副部会長) 大西会長はパラレルにやることを考えていると思う。6人会が出てきたものを整理するのに時間がかかって、考える時間が短くなってしまっているのか、大雑把でいいから早く渡してほしいと思っているかどうかだと思う。
- (岡山部会長) 運営についてはこれくらいでないと無理ではないかと思う。
- (鈴木委員) 行政とキャッチボールしないと絶対にできない。工業とか商業はみんなわからないと思う。それがわかっていないと議論できないはずだが、そこはプロが見て判断してもらえない。
- (岡山部会長) 全体の流れは見えないが、次回と4回目ぐらいまでは時間調整をして、まずは先ほど意見が合致していた将来像の取りまとめの仕方は一回考えさせてほしい。ただし少なくとも報告をするためには、現状、課題、それに対する捉え方、それについての民間の考え方をまた入れさせようということなので、とりあえず

事務局にそこまではまとめさせていきたいと思うがよろしいか。

～異議なし～

(岡山部会長) 将来像をまとめるのに最低限どれくらいの日にかがいますか。

(木村企画財務課長) 現総合計画の評価の取りまとめもありますので、9月末ぐらいまでお時間をいただきたいと思います。

(浅井副部会長) 評価のまとめは9月末ごろを目標に進めているのか。

(木村企画財務課長) そうです。

(浅井副部会長) そうすると、この第3回の会にそれも反映させた課題整理、事務局案を提示すると思っていますか。

(木村企画財務課長) 現総合計画の評価、そこから見えてきた現状、課題、取り組みまでのセットでお出しするということでもいいですか。

(浅井副部会長) はい。

(木村企画財務課長) お断りですが、この現状、課題、政策は、各部長レベルでお出しするもので、市長の同意を得たものではないですが構いませんか。まだ総合計画ができていないので部長レベルの叩き台としてよろしいですか。

(岡山部会長) まだ叩き台だからいいと思う。

(浅井副部会長) むしろ前のほうがいい。

(岡山部会長) そうすると、それに基づいて課題の解決がこれでいいのかということを念頭に、第3回目をやって、4回目にそれをもう一回まとめさせて、4回目で将来像としてこういう方向でいこうかという最終のまとめでよろしいか。

～異議なし～

(岡山部会長) ゴールを決めておいて話題を決めるのは、非常に不本意だがそういう形を取らせていただきます。

第3回目だが、10月1日か2日にできないか。

(木村企画財務課長) 資料は1週間ぐらい前に提出することになっていますが、1日か2日だと事前にお渡しできませんが。

(鈴木委員) この部会だけOKでいいのではないか。

(岡山部会長) ここだけはそうしましょう。

(鈴木委員) 他の部会は駄目だけど、この部会だけはいいと。

(岡山部会長) それでは部会長の判断として当日配布ということで。

(木村企画財務課長) 当日の配布でいいということであれば、10月の第一週ということで。

～第3回産業部会は10月3日(木) 15時開会と決定する～

～第4回産業部会は10月21日(月) 15時開会と決定する～

(岡山部会長) 1回目を通しておくとまた意見が変わってくるので、できれば1回流してください。1日でも2日でも結構ですので、出してください。事務局は課題をできる範囲まで作ってください。委員の皆さんも一番ここが大事なところですので、当初大西会長から懇々と言われている「私ども民間主導で作るんだ」といった

意気込みは、ここで力を削いでしまうと、本当に何にもならないので。ぜひこの課題も「もう一回自分たちで、自分でもう一回検証するんだ」と。そういう心意気だけしっかりして作っていただく。そういう形で第3回目を進めたいと思う。第4回目も大体の大きな項目として方向付けをします。

この状況は副部会長に掌握していただいたので、副部会長会議をやっていて、今の6人会を結成するならこの間にやっていただきたい。これ以上もう短くも長くもできないのでお願いしたい。

(浅井副部会長) 17日に副部会長会議を開催することになっているので、そこで話をして基本案を作ります。それと同時に大西会長が待っているのがデータの整理なので、必要なデータや資料のリストについて必要なものがあればお願いしたい。

(足立委員) 中津川市の農業振興ビジョン、東美濃地域農業振興ビジョンは基本です。

(鷹見委員) 中津川市林業振興ビジョンを入れてください。

(岡山部会長) 他にご意見ありますか。

(鷹見委員) 先ほど部会長が言われた切り口とか見方を変えるというのは、最終的には課題もあるが、将来の夢を語るという認識でいいか。

(岡山部会長) そうです。

ほかよろしいですか。

(木村企画財務課長) お手元に配りましたアンケートの速報は9月17日の週にお届けできるかと思います。それから分析の追加があれば、業者お願いして追加で出すような形になりますのでお願いします。

(浅井副部会長) クロステーブルなんかはぜひお願いします。

(鷹見委員) 景観計画も資料に入れておいたほうがいいかもしれない。

(鈴木委員) 各部署からそういう書類はいっぺんに出すという話ではなかったか。

(木村企画財務課長) これは副部会長が取りまとめられて、事務局に来ることになっています。

(浅井副部会長) 今の趣旨は、これからいろいろ必要になってくるだろう資料を、事務局のほうで収集してもらうのに時間がかかるから、早めに分析するために必要なものの資料やデータの名前をリストしてもらうという意味です。

(足立委員) 私たちのデータの中には、T P Pのことは書いていないが、これから大きな課題になる。

(浅井副部会長) もう少し具体的に言わないと事務局も集めようがないと思うが。

(木村企画財務課長) 多分T P Pは資料がないと思います。

(岡山部会長) 決まったことに対してはそうなるが、今審議中のこれからなるだろうというところは弱いところだから、こちらの中で、世界に向かってどうするんだという言葉に変わっていくだろうと思う。

(岡山部会長) 予定時間になりましたので、これで閉会にさせていただきます。どうも慎重なご審議、どうもありがとうございました。

午後5時05分 閉 会

平成25年11月18日
産部会長 岡山金平